

腎臓内科初期臨床研修プログラム(選択科)

研修責任者 松島 秀樹

研修期間 4週～

当科では、腎生検による腎炎の病理組織診断と治療、腎不全の診断と治療、透析用バスキュラーアクセス形成手術、透析導入、維持透析の管理といった一貫した腎疾患診療に携わってきている。急性期病院としての急性血液浄化療法は勿論、精神科病棟や結核病棟を有する病院として、様々な合併症をもつ慢性腎不全患者の管理も行っている。

I. 対象となる疾患

腎炎、腎不全、電解質異常、各種血液浄化療法、維持透析など

II. 一般目標(GIO ;General Instruction Objective)

- *腎疾患の診療に必要な基本的知識や技能を習得する。
- *緊急性のある腎疾患に対しての初期対応が出来るようにする。
- *腎機能が低下した患者および透析患者の管理が出来るようにする。

III. 行動目標(SBOs ;Structural Behavior Objectives)

- ①病歴聴取や理学的所見の技法を習得する。
- ②尿所見や血液検査、エコーやCTなどの画像検査の結果を解釈する。
- ③急性腎障害の鑑別診断を習得し、急性血液浄化療法の適応を検討する。
- ④慢性腎不全の保存療法、慢性透析の管理と合併症の治療についての知識を深め管理ができるようになる。
- ⑤専門的検査や治療として、腎生検の施行および病理組織の診断と治療方針の決定を指導医のもとで実施し理解する。内シャント血管を指導医とともに作成しバスキュラーアクセスの管理を習得する。各種血液浄化療法を指導医とともに導入し管理する。
- ⑥代表的な腎疾患についての理解を深め、診察できるようにする。

IV. 方略

指導医とともに病棟入院患者、維持透析の外来患者を受け持ち、検査、治療、管理をしていく。症例検討会や抄読会などを通じて知識や考察力を高めていく。

1) 病歴聴取や理学的所見(研修場所：外来、病棟)

真摯な態度で患者に接し、過去の尿所見や血液検査の経過、高血圧や糖尿病の出現時期など、診断や治療に重要な病歴の聴取に努めていく。体液量の評価や動脈硬化の所見、尿毒症の症状などを的確に診察できるようにしていく。

2) 基本的な検査、診療(研修場所：外来、病棟、臨床検査室、画像診断室)

病態に応じて適切な尿検査、血液検査および画像検査をオーダーし、各結果を解釈して的確な診断ができるようにしていく。

3) 専門的な検査、治療(研修場所：手術室、臨床検査室、透析室)

聖隷三方原病院 臨床研修プログラム

腎生検に助手として参加し、腎病理組織(光学顕微鏡、蛍光抗体法、電子顕微鏡)の診断の解釈とそれに基づく治療方針の検討をしていく。内シャント形成術に助手として参加し、バスキュラーアクセスの管理を習得していく。各種血液浄化療法の適応を検討し、実施および管理していく。

4) 経験すべき疾患(研修場所: 外来、病棟)

急性腎障害、急性血液浄化療法、電解質異常、慢性腎炎、急速進行性腎炎、慢性透析の導入、維持透析の管理、各種透析合併症の治療

5) 週間予定(研修場所: 外来、病棟、カンファレンス室)

- ・毎週火曜日に病棟廻診およびカンファレンス
- ・毎週水曜日に抄読会や勉強会
- ・月1回の腎病理組織カンファレンス
- ・月1回の透析室勉強会

V. 評価

実地診療の場、およびカンファレンスにおいて目標の項目についての評価を行う。

VI. 学会活動

腎臓学会、透析医学会の総会や地方会、研究会での演題発表など

VII. 研修医への提言

「腎不全の管理や透析療法に携わることは、どの臨床分野に進まれても、良い経験になると思います。当科で研修されることをお待ちしております。」